

## 電磁気学 演習第 4 回 — ガウスの定理とストークスの定理

### 問題 4.1：面積分

任意のベクトル場  $\mathbf{A}$  について、ある面  $S$  上での面積分を次のように定義する。

$$\int_S \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S} = \int_S \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{n}(\mathbf{x}) dS \quad (4.1)$$

ここで、 $\mathbf{n}(\mathbf{x})$  は面  $S$  上の各点での単位法線ベクトルである。

(1) 面  $S$  が媒介変数  $u, v$  を用いて  $\mathbf{r} = \mathbf{r}(u, v)$  と表されるとする。次に示す媒介変数についての  $\mathbf{r}$  の微分のベクトル積について、その大きさと向きが何を表すかを考察せよ。

$$\frac{\partial \mathbf{r}(u, v)}{\partial u} \times \frac{\partial \mathbf{r}(u, v)}{\partial v} \quad (4.2)$$

(2) 面積分 (4.1) を  $u$  と  $v$  についての二重積分で表わせ。

(3) 単位法線ベクトル  $\mathbf{n}(\mathbf{x})$  の面積分は面  $S$  の表面積を与える。

$$\int_S \mathbf{n}(\mathbf{x}) \cdot d\mathbf{S} = \int_S dS = S \quad (4.3)$$

$S$  を半径  $a$  の球の表面とし、面上の点  $\mathbf{r}$  を  $\theta, \varphi$  を媒介変数として  $\mathbf{r}(\theta, \varphi) = a \sin \theta \cos \varphi \mathbf{e}_x + a \sin \theta \sin \varphi \mathbf{e}_y + a \cos \theta \mathbf{e}_z$  とする。法線ベクトル  $\mathbf{n}$  を求め、面積分 (4.3) を実行することで表面積  $S$  を求めよ。

(4) 各辺が  $x, y, z$  軸に平行な微小直方体を考える。辺の長さはそれぞれ  $dx, dy, dz$  とする。直方体の六つの面について面積分を計算し、次の**ガウスの定理** (Gauss's theorem) <sup>[1]</sup> が成り立つことを確認せよ。ただし、 $S = \partial V$  は領域  $V$  の表面とする。

$$\int_S \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S} = \int_V \operatorname{div} \mathbf{A} dV \quad (4.4)$$

### 問題 4.2：ガウスの定理

(1) 次の場合で式 (4.4) の両辺の積分を計算し、ガウスの定理が成り立つことを確認せよ。

(a)  $\mathbf{A}$  は  $z$  方向の定ベクトル場  $\mathbf{A} = A\mathbf{e}_z$  とする。

積分領域は  $z$  軸を中心軸とする円柱領域 (底面の半径  $a$ , 高さ  $h$ ) とする。

(b) ベクトル場を  $\mathbf{A} = (-x, y, 0)$  とする。積分領域は前小問 (a) と同じとする。

(c) ベクトル場を  $\mathbf{A} = (0, 0, z)$  とする。積分領域は原点を中心とする半径  $a$  の球領域とする。

(2) ガウスの定理を用いて面積分  $\int_S \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S}$  を求めよ。ただし、ベクトル場は  $\mathbf{A} = \mathbf{r}/r^3$  で、積分領域は原点を中心とする半径  $a$  の球領域とする。

<sup>[1]</sup> 発散定理 (divergence theorem) という。

(3) ガウスの定理を用いて面積分  $\int_S \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S}$  を求めよ。ただし、ベクトル場は  $\mathbf{A} = \text{sgn}(z)\mathbf{e}_z$  とし、積分領域は原点を中心とする半径  $a$  の球領域とする。  $\text{sgn}(x)$  は符号関数である。

$$\text{sgn}(x) = \begin{cases} 1 & (x > 0) \\ 0 & (x = 0) \\ -1 & (x < 0) \end{cases} \quad (4.5)$$

### 問題 4.3：線積分とストークスの定理

任意のベクトル場  $\mathbf{A}(\mathbf{x})$  について、ある曲線  $C$  に沿った線積分を次のように定義する。

$$\int_C \mathbf{A} \cdot d\mathbf{x} = \int_C \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{t}(\mathbf{x}) dx \quad (4.6)$$

ここで、 $\mathbf{t}(\mathbf{x})$  は曲線  $C$  上の各点での接線ベクトルである。

(1) 媒介変数  $u$  に対して点  $\mathbf{r}(u)$  が動く軌跡を曲線  $C$  とするとき、接線ベクトル  $\mathbf{t}(u)$  を求めよ。

(2) 線積分 (4.6) を  $u$  の積分として表わせ。

(3) 原点を中心とする半径  $a$  の円を  $C$  とする。  $C$  は  $xy$  平面上にあり、  $z$  軸を左に見ながら回る向きに進むものとする。 次の積分を計算せよ。

$$\mathbf{I} = \int_C \mathbf{x} \times d\mathbf{x} \quad (4.7)$$

(4)  $xy$  平面上の四点  $\mathbf{A} = (x, y, z)$ ,  $\mathbf{B} = (x + dx, y, z)$ ,  $\mathbf{C} = (x + dx, y + dy, z)$ ,  $\mathbf{D} = (x, y + dy, z)$  が作る長方形  $S$  を考える。  $\mathbf{A} \rightarrow \mathbf{B} \rightarrow \mathbf{C} \rightarrow \mathbf{D} \rightarrow \mathbf{A}$  と一周する経路  $C$  について、次の**ストークスの定理** (Stokes' theorem) <sup>[2]</sup>が成り立つことを示せ。

$$\int_C \mathbf{A} \cdot d\mathbf{x} = \int_S \text{rot } \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S} \quad (4.8)$$

### 問題 4.4\*：ガウスの定理とストークスの定理

(1) 原点を中心とする半径  $a$  の球の内部を  $V$  とし、その表面を  $S = \partial V$  とする。球座標  $(r, \theta, \varphi)$  を用いて  $\mathbf{A}(r, \theta, \varphi) = A_r \mathbf{e}_r + A_\theta \mathbf{e}_\theta + A_\varphi \mathbf{e}_\varphi$  として式 (4.4) の両辺を計算し、ガウスの定理が成り立つことを示せ。

(2)  $XY$  平面上で原点を中心とする半径  $a$  の円を  $S$  とし、その縁を  $C = \partial S$  とする。円筒座標  $(r, \theta, z)$  を用いて  $\mathbf{A}(r, \theta, z) = A_r \mathbf{e}_r + A_\theta \mathbf{e}_\theta + A_z \mathbf{e}_z$  として式 (4.8) の両辺を計算し、ストークスの定理が成り立つことを示せ。ただし、線積分は  $z$  軸を左にみる向きに辿るものとする。

以上

---

<sup>[2]</sup>回転定理 (curl theorem) ともいう。